

地域看護活動におけるソーシャル・キャピタル概念の有用性について

肥 後 恵美子

要 約

本研究の目的は、公衆衛生学的研究におけるソーシャル・キャピタル概念と健康との関連性、及びソーシャル・キャピタル指標の明確化について、文献レビューにて明らかにし、公衆衛生看護活動におけるソーシャル・キャピタル概念の有用性に関する基礎的検討を行うことである。今回、PubMedと医学中央雑誌のデータベースを用いてRCTの文献検索を行った。キーワードは、ソーシャル・キャピタル、健康とした。医学中央雑誌においては、抽出された文献はなかった。PubMedについては、13件の文献が抽出され、研究目的に有効な5件の文献について検討を行った。分析の結果、①RCT研究に用いられていた指標は、ソーシャル・キャピタル概念の基本的要素を基礎としたものであり、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタルを測定していた。②5件の文献は、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタルの構成要素を設定していたが、具体的な質問項目に共通性は見いだせなかった。③現在までのRCT研究の蓄積においては、健康と社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル概念の強い関連性は確定されなかったが、貧困世帯の多い地域では、関連性が示された研究があった。④分析手法としては、個人特性の交絡因子の影響を除去するために回帰分析が用いられていた。今後は、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル下位概念の構成を検討した上での測定指標の構築が必要であると考えられた。

キーワード：ソーシャルキャピタル，健康，指標，社会的凝集性

I. はじめに

現在、我が国の生活習慣病患者は増加傾向にある。そのため、2000年より健康日本21が掲げられ、更には、健康増進法の下、健康診査結果による、動機付け支援や、集団指導が行われ、会社組織などの団員や地域住民の健康向上への支援が続けられている。しかし、生活習慣病をはじめとした疾病への予防行動や、生活習慣病の進行予防のための健康的な生活の継続は、対象集団にとって非常に困難な課題であることは否めない。

このような状況から研究者は、以前に行動変容に対する探求の一環として地域で生活しているⅡ型糖尿病患者の自己管理について、質的研究を行った。その結果、地域で暮らすⅡ型糖尿病患者の自己管理行動の実施と継続については、当事者が自己管理の支えとするために構築した、他者との繋がりが影響を及ぼしている可能性が示唆された。

このような、他者との繋がりを何らかの資産と捉える理論として、ソーシャル・キャピタル (social capita) という概念がある。この概念は、1960年代に、ハニファンが初めて用いた概念である¹⁾。当初ハニファンは、

「社会単位を構成する個人や家族間の仲間意識、共感、社会的交流が、その社会単位全体の生活状態の改善にとって重要であり、それらの蓄積したものがソーシャル・キャピタルである」と述べ、この考え方は、今日におけるソーシャル・キャピタルの基本的ポイントを全て捉えている²⁾といわれている。その後、多くの社会学者がソーシャル・キャピタルの概念化を独自に構想し³⁾、1993年にはパットナムが政治学に援用し大規模な調査研究の指標に用いたことで大きく発展している^{4) 5)}。

ソーシャル・キャピタルという概念は、現在、公衆衛生領域においても取り入れられ、研究されるようになってきた^{6) 7) 8) 9)}。しかしながら、ソーシャル・キャピタルは、様々な側面から論じられ、俯瞰された概念であるために、現在の研究段階では標準的な測定方法もなく¹⁰⁾、総合指標を用いたソーシャルキャピタル指標自体の意味に対して宿命的な理論的曖昧さを批判されることも多い¹¹⁾状況である。一方で、前述したように、現在、公衆衛生領域の研究では、多く取り入れられつつある概念であり、対象集団や地域の集団的な健康問題に対して、ソーシャル・キャピタルが何らかの影響を有していることや、有効活用の可能性が示唆されている³⁾。

1) 名古屋市立大学看護学部

現在、地域保健活動においては、適切な生活習慣の獲得のために、生活習慣病予防教室をはじめとした集団に対する保健事業の開催と、終了後の同窓会などによる継続的な支援といったアプローチが行われている。しかし、対象集団が個人の健康行動にどのように影響するのかを明らかにした研究はみられていない。このような視点に対して、地域保健活動におけるソーシャル・キャピタルの有用性の検討は、地域で生活する人々への生活習慣病予防に関する保健活動としての、対人的アプローチへの評価を得る手がかりになると考えられる。

そこで今回、公衆衛生領域の研究において、ソーシャル・キャピタル概念がどのような指標を用いて調査されているのか、健康との関連がどのように明らかとなっているのか文献レビューを実施することとした。

II. 研究背景

現在、ソーシャル・キャピタル論の有用性について様々な分野が注目し、国単位での大規模な調査研究を実施している⁹⁾¹²⁾。公衆衛生の分野においてもパットナムの枠組みを用いた疫学的研究が行われており、ソーシャル・キャピタルと健康との関連が明らかとなっている⁶⁾⁷⁾⁸⁾。Public Health Nurseの分野では、ソーシャル・キャピタル論を用いた研究が行われ始めているが、日本の公衆衛生看護学分野においてはソーシャル・キャピタルを用いた学術研究は1件¹³⁾あるのみである。

また、ソーシャル・キャピタルは、それぞれの研究者の視点によって解釈が異なって発展してきている¹⁾⁵⁾¹⁴⁾¹⁵⁾概念であり、ナショナルサーベイでは、その測定にパットナムが使用した変数を用いているが、その指標には、「ソーシャル・キャピタル」という独立変数の中にすでに一つの因果関係が組み込まれている⁴⁾といった課題や、地域レベルの疫学的研究によってソーシャル・キャピタルと健康との間に正の相関があることは明らかとなっていることから保健医療分野での有用性が期待されるが、相関関係の方向性や変数について解明する必要がある⁶⁾⁷⁾¹⁵⁾と言われている。ソーシャル・キャピタルと健康との間に正の相関があることから地域保健活動へのソーシャル・キャピタル援用の有益性があると考えられたが、ソーシャル・キャピタル概念の今後の活用のためには、その第一段階として、現在までの先行研究を基にソーシャル・キャピタルが、どのような指標によって測定されているのか、また、測定されたソーシャル・キャピタルと健康との関連性は明らかとなっているのかについて調査する必要があると考えられた。

III. 研究方法

先行研究による研究背景の結果をふまえ、どのようなソーシャル・キャピタル変数により、健康との関連が明らかとなっているのかについて、保健医療分野における文献検索と検討を行った。

1. 文献検索方法

- 1) データベース：「医学中央雑誌」「PubMed」
- 2) 検索期間：先行文献を参考に1999年～2010年までとした。
- 3) 検索手順
 - (1) 用語：医学中央雑誌では、「ソーシャル・キャピタル」とし、PubMedでは、「social capital」として検索を実施するとともに、それぞれのデータベースで「健康」「Health」とのAND検索を実施した。
 - (2) PubMedでは、言語の自動読みかえを避けるため、ソーシャル・キャピタルのLimitをTitle/Abstractに限定した。
 - (3) ソーシャル・キャピタルと健康の関連性についての有効な研究論文を得るため、医中誌、PubMedともにRCTに限定した。
 - (4) (1)～(3)によって、医中誌において検索された文献はなかった。PubMedにおいては13件が検索された。
 - (5) 更に、健康とソーシャル・キャピタルとのAND検索を実施したが、検索数0件となったため、(4)で抽出された13件の文献から、本研究の目的に有効であると考えられる文献5件を分析対象とした。

IV. 結果

5件の文献検討の結果、サンプリングについては、選定された対象地域に居住している者に対して層化無作為抽出が行われていた。

ソーシャル・キャピタルに用いられた指標は、ナショナルサーベイを参考にした指標と先行研究による指標を組み合わせて用いており、ナショナルサーベイで採用されている指標は、パットナムの分析手法が基盤となって発展したスケールであった⁵⁾。また、5つの文献で用いられた指標は、「信頼」「規範」「ネットワーク」というソーシャル・キャピタルの基本的要素を基礎としたものであり、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル概念⁷⁾を測定する目的で設定されていた。また、その多くは、ソーシャル・キャピタルの構成要素である認知的ソー

シャル・キャピタルと構造的ソーシャル・キャピタル⁷⁾を測定するための指標であった。しかし、それぞれの研究で独自に測定指標の精度が検証されているものの、5件の文献においてソーシャル・キャピタルの構成要素から更に具体的な共通要素は見出せなかった。

統計手法については、指標の精度を補うと共にソーシャル・キャピタル指標以外の交絡因子の影響を避けるために回帰分析による統計手法や、マルチレベル回帰分析⁸⁾が用いられていた。

健康とソーシャル・キャピタルの関連性については、前述した回帰分析により、交絡因子を除き指標のコントロールを行った結果、対象となったコミュニティの健康に関する指標とソーシャル・キャピタルの指標との関連性は、弱い関係性に留まっていた。しかしながら、一つの特性である貧困世帯については、健康に影響する因子としてのソーシャル・キャピタルの存在が明らかとなっている文献がみられた²¹⁾ (表1)。

V. 考 察

今回の文献レビューでは、対象文献をRMに限定することで実証研究のevidenceが確保されたものを抽出するとともに、ソーシャル・キャピタル概念としての指標を調査する目的から、検索システムのソーシャル・キャピタルに対する自動読み替えを避けて検索した。その結果、5件の文献が抽出された。

ソーシャル・キャピタルの指標については、「信頼」「規範」「ネットワーク」というソーシャル・キャピタル概念の基本的要素を基礎としたものであると考えられたが、抽出した5件の文献において、ソーシャル・キャピタルの基本的要素よりもより具体的な測定項目における共通要素は見出せなかった。

各文献におけるソーシャル・キャピタル指標は、ボランティア協会との関係の幅と深さに対する認知¹⁷⁾や、有害な薬物を使用することへの行動規範¹⁹⁾、隣人を有益な者として理解しているか²⁰⁾、といった人々との関係性における主観的認知を指す、認知的ソーシャル・キャピタルの測定が多く実施されていた。また、一方で、所属している自主的な団体を3つあげる質問項目¹⁷⁾や、学校の共同の状況、その土地に住んでいる友愛としての絆のある者との接触²¹⁾といった、構造的ソーシャル・キャピタルが含まれている指標も見られていた。これらの指標の共通性は、ソーシャル・キャピタルを社会凝集性として捉え、健康との関連を明らかにするために指標を作成したことであるといえる。しかしながら、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタルの下位項目である認知的ソーシャル・キャピタルと、構造的ソーシャル・キャピタル

それぞれの評価指標においても、その具体的質問項目の共通性は見いだせていない現状が明らかとなった。

また、これまでの先行研究において健康とソーシャル・キャピタルとの関連性が示唆されている³⁾ものの、RCTのレベルにおいては明確にはなり得ていなかった。これは、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル概念の曖昧さが、測定指標の一般化に影響していると考えられる。それによって、ソーシャル・キャピタルの測定が焦点化されていないのではないだろうか。ソーシャル・キャピタルは非常に大きな概念であり、様々な捉え方がなされている。故にソーシャル・キャピタル概念全体における一つの側面であると考えられる社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル概念においても、更に下位概念の明確化と構造化が求められるのではないだろうか。今回の文献レビューにおいて、調査指標の具体的な共通性がなかったこと、RCTレベルでは、健康との直接的で強い関連性が見いだせなかったことは、前述した内容を示唆するものであり、今後は、更に社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル概念の精緻化と、指標の開発が必要であると考えられた。また、ソーシャル・キャピタル概念と健康との関連性については、一部の研究では、貧困地域におけるソーシャル・キャピタルと健康の関連性が示唆された。しかし、前述したように、ソーシャル・キャピタルの測定指標自体が研究個々によって概念の様々な側面から設定されてものであると推測されたことから、RCTレベルの研究としては、現段階ではソーシャル・キャピタル概念と健康の関連性が明確であるとはいえないと考えられる。

他方、今回の文献レビューによって、現在までのRCTでは、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル概念における多側面的な捉えが各研究の調査指標に反映されていることが明らかとなった。以上から、今後、公衆衛生分野におけるソーシャル・キャピタル概念を用いた研究においては、その概念の様々な側面によって、各々にソーシャル・キャピタルの下位概念とその指標が構築される可能性も有していると考えられる。実際に文献レビューにより、ソーシャル・キャピタル概念のそれぞれの側面によって指標が異なって設定され用いられていたことから、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル概念のどのような下位概念を用いることで仮説が検証されるのか、そのためにどのような研究の枠組みで測定指標を設定する必要があるのか、構造的に捉えたうえで議論を重ね、研究枠組みに取り入れることにより、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタルの下位概念における様々な側面で概念が構築され、構造化が進む可能性を有していると考えられる。

また、分析手法については、個人特性との交絡を避け

表1 文献レビューの結果 【ソーシャル・キャピタル指標と健康の関連について】

No. 1

著 者 (発表年)	研 究 目 的	データ収集 対 象 者	ソーシャル・キャピタルの指標	統計手法	ソーシャル・キャピタルと 健康の関連性
VeenstraG. et al. (2004)	健康と幸福に関するそれぞれ4つの指標（自己に関連した健康、精神的苦痛、多くの慢性疾患の状態、BMI）を用いて、自主的な団体における自主的なかわりの充足感と、健康の関連を調査	全数調査レベルの社会人口統計学的データ（1996）を基に選択したカナダのハルミントン市の4つの地域から無作為抽出した居住者1504名（有効回答率：60%）	自主的な団体（ボランティア協会）との関係の幅と深さによって、ソーシャル・キャピタルを評価 （※所属している自主的な団体を3つあげ、団体との関係の程度を評価する質問を使用）	ロジスティック回帰分析	①自主的なかわりの充足感と、超過体重の程度（BMIによる評価）は、社会経済的地位、健康行動とコーピングスキルなど、個人的要因をコントロールした後に、ソーシャル・キャピタルとの弱い関連性があった。 ②居住者の近隣地域の特徴と2つの指標（自己に関連した健康、超過体重の程度）は、応答者の他の特徴（多くの慢性疾患の状態と精神的苦痛の変数）をコントロールした後では、有意に関連性があった。 ③健康的な近隣地域と、自主的な団体（ボランティア協会）における自主的なかわりの充足感の関係は、互いに依存しあっていた。
Mulvaney C.et al. (2005)	イギリスのノッティンガムの貧困地域に住んでいる母親のグループの近隣地域のソーシャル・キャピタルと、母親の抑うつ症状、貧困、社会的な支持、ストレスとの関係を調査	ノッティンガムの貧困地域に住む子供を持つ母846名 （有効回答率：58.7%）	Health and Lifestyles:a survey of the UK population Part 1にてソーシャル・キャピタル測定に用いられた質問項目を使用 ①あなたはこの場所を楽しんで住んでいるか？ ②その場所は安全に感じるか？ ③その場所は、隣人が互いに世話をするか？ ④子供たちのための良い施設があるか？ ⑤交通の便は良いか？ ⑥あなた自身のための良いレジャー施設があるか？	ロジスティック回帰分析	①自己報告されたストレスを統計的に調整した後では、近隣地域のソーシャル・キャピタルの個人的評価レベルは、母親の間の抑うつ症状と関係していなかった。 ②貧困と精神的な苦悩についての個人レベルの変数は、彼女らの居住地である抑鬱症状の危険性を予測するような近隣地域のソーシャル・キャピタルに対する母親の評価の変数よりも重要であると考えられた。
Feinberg M.E.et al. (2007)	大学、コミュニティ協力プロジェクト（若者のポジティブな成長を支持して、早期の物質使用を減らすことを目的とする根拠に基づいた干渉）に参加していた、アイオワ州とペンシルバニア州の14のコミュニティチームに対し、18ヶ月間チームが機能していることと、①コミュニティの人口統計、②ソーシャル・キャピタル、③チームの特徴、④チーム・メンバー個々の行動の4点との関連について調査	アイオワ州とペンシルバニア州のそれぞれ14の計28コミュニティの介入群・対照群（①チームメンバー：137名②Human Service Agency 59名③中学校長16名④プロジェクトの技術提供者8名）計220名（延）	<コミュニティの文脈的特徴についての指標> ①コミュニティの貧困の程度 ②地区の学問的等級 <ソーシャル・キャピタルの指標> ①コミュニティの教育が有効に行われるための下地 ②有害な薬物を使用することへの行動規範 ③共同に対する意向 ④学校の共同	多変量回帰分析（重回帰分析・ロジスティック回帰分析）	コミュニティの貧困のレベルをコントロールした分析では、コミュニティの状況の他の測定と、ソーシャル・キャピタル（コミュニティの教育が有効に行われるための下地、有害物質使用に対する規範、コミュニティと学校の共同）は、チームのいくつかの機能と中程度の結合があった。この結果は、コミュニティの貧困という明らかに強い予測変数を調整した後でさえ、コミュニティの社会的状況とソーシャル・キャピタルは、チームが機能するための質の変動を証明することを示唆した。

表1 文献レビューの結果 【ソーシャル・キャピタル指標と健康の関連について】

No. 2

著 者 (発表年)	研 究 目 的	データ収集 対 象 者	ソーシャル・キャピタルの指標	統計手法	ソーシャル・キャピタルと 健康の関連性
de Souza E.M.et al. (2007)	対象地域の年配者の記憶を、同地域の学生と共有するための回想法による世代間活動のプログラムを4ヵ月実施し、その前後に、ソーシャル・キャピタル、家族の関係、自己評価される健康の認識についてのアンケートを実施。このプログラムによる参加者の認知的ソーシャル・キャピタルの得点の上昇と、自己評価される健康に関する得点の上昇を調査	セイランジャ（ブラジル衛星都市）13街区の対象学校区に居住する無作為に抽出された介入群・対照群（①12～18歳の11クラスの学生253名②60歳以上の居住者266名）計519名（有効回答率：85.95%）	信用と相互関係の質問が含まれた、ソーシャル・キャピタルの認知構成要素についての質問を実施。主に、アメリカのSocialGeneralSocial Survey（Kawashi, 1999）とイングランドの健康調査で用いられた質問紙（Bajekal & Purdon, 2001）に由来 <信用について> 家族や一般に人々を信用することについてどのように思うか ※4つの領域（完全に信用している、条件付きで信用している、信用していない、全く信用していない）で評価 <誠実さの認知について> 一般的に言って、あなたは、人々が正直であると思うか？ <隣人の相互性について> 隣人を有益な者として理解しているか。 ※4つの領域（すべて、ほとんど、少数しか、何にも）で評価 <一般的な人々の態度について> ほとんどの人は、有益な存在であろうとしているか、あるいは、大抵はそれに注意しているか？ <American General Surveyに由来する他の指標> ①可能性があるならば、大部分の人々があなたを利用しようとするだろうと思うか、或いは公正にしようとするか？ ②一般的に言って、大部分の人々は信用できるか、あるいは、慎重にしてみすぎるということはないか？	ロジスティック回帰分析	①介入群の最も年配者のサンプルは、近隣地域の有益性（多くの人々は、家族の良い関係性について誠実、あるいは考慮するか判断しなさい）が、コントロール群の2倍以上であることが明らかとなった。 ②干渉グループは、＜隣人の相互性について（すべてまたは大部分の隣人は、有益な者として理解している）＞＜誠実さの認知について（すべてまたは大部分の人々は、正直である）＞と回答した者が、対照群に比べ3倍であった。 ③介入群は、対照群に比べ約3倍彼らの健康を良いと評価した。
Stafford M.et al. (2007)	一般的な頻度の高い精神疾患（CMD）とソーシャル・キャピタルとの関連性を調査	ロンドン、スコットランド、イングランドの計239地区のHealth Survey参加者のうち、地区毎に層化無作為抽出した9082名	構造的ソーシャル・キャピタルと、認知的ソーシャル・キャピタルについて質問を実施＜構造的ソーシャル・キャピタル＞ ①その土地に住んでいる家族としての絆のある者との接触 ②その土地に住んでいる友愛としての絆のある者との接触 ③協会との帰属関係 ④外の社会的ネットワークを持つことによる利用可能なより広いコミュニティーへの統合 <認知的ソーシャル・キャピタル> ①信用 ②近隣への愛着 ③他者への寛容 ④相互性	マルチレベルのロジスティック回帰分析	CMDに対する近隣地域のソーシャル・キャピタルによる主要な影響はなかった。しかし、貧しい世帯に限定するとCMDとソーシャル・キャピタルは強い関連があり、それは、指標の内の3つ要因（友人との接触、近隣への愛着・他者への寛容）であった。

るために回帰分析による手法が用いられていた。これは、集団におけるリソースとしてのソーシャル・キャピタル測定の場合、個人特性を排除するための手法であり、ソーシャル・キャピタル測定には妥当であると考えられる⁸⁾。何を交絡因子として捉えるのかについては、ソーシャル・キャピタル概念のどの側面を研究に組み入れるのかによって決定される。そのため、統計手法においても、研究全般におけるソーシャル・キャピタル概念の捉え方の明確性が必要であると考えられた。

VI. 結 論

- ① RCT研究に用いられていたソーシャル・キャピタル概念の指標は、「信頼」「規範」「ネットワーク」というソーシャル・キャピタル概念の基本的要素を基礎としたものであり、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタルを測定していた。
- ② 抽出された5件の文献は、社会凝集性としてのソーシャル・キャピタルの構成要素である認知的ソーシャル・キャピタル、構造的ソーシャル・キャピタルの測定項目を設定していたが、具体的な質問項目に共通性は見いだせなかった。
- ③ 現在までのRCT研究の蓄積においては、健康と社会凝集性としてのソーシャル・キャピタル概念の強い関連性は確定されなかったが、貧困世帯の多い地域では、関連性が示された研究があった。
- ④ 分析手法としては、個人特性の交絡因子の影響を除去するために回帰分析が用いられていた。

VII. 参考・引用文献

- 1) L.J Hanifan:The ANNALS of the American Academy of Political and Social Science, American Academy of Political and Social Science, 67, 130-138, 1916
- 2) 宮川公男: ソーシャル・キャピタル研究序説、統計研究会21(2), 4-15, 2002
- 3) 浦野慶子: ソーシャル・キャピタルをめぐる保健医療社会学の研究展開、保健医療社会学論集, 17(1), 1-12, 2006
- 4) 鹿毛利枝子: 「ソーシャル・キャピタル」をめぐる研究動向ーアメリカ社会学における三つの「ソーシャル・キャピタル」ー, (一・二・完), 法学論叢, 151(3), 101-119, 152(1), 71-87, 2002
- 5) R. D. Putnam D., Making democracy work: civic traditions in modern Italy, Princeton University Press, New Jersey USA, 1993, 河田潤

- 一訳: 哲学する民主主義ー伝統と改革の市民的構造ー, NTT出版, 東京, 2001
- 6) Ichiro Kawachi: Social capital and health-making the connection one step at a time. Oxford Journals International Journal of Epidemiology 35(4):989-993, 2006
- 7) 市田行信他: ソーシャル・キャピタルと健康, 公衆衛生69(11), 58-63, 2005
- 8) 近藤克則編, 検証「健康格差社会」, 医学書院, 東京, 2007
- 9) Social Analysis and Reporting Division Office for National Statistics: Social Capital A review of the literature, 2001,
<http://www.statistics.gov.uk/socialcapital/downloads/soccaplitreview.pdf>, 2008.10.3
- 10) Ichiro Kawachi, S.V. Subramanian, Daniel Kim Eds.: Social Capital and Health, Springer+Business Media, LLC, New York USA, 2006, 藤澤由和, 高尾総司, 濱野強訳, ソーシャル・キャピタルと健康, 日本評論社, 東京, 2008
- 11) 上野真也, ソーシャルキャピタルにおけるコミュニティ効果, 熊本大学学術リポジトリ, 熊本大学政策研究, 2, 23-32, 2011,
<http://hdl.handle.net/2298/18452>, 2011.10.4
- 12) 平成14年度内閣府委託調査「ソーシャル・キャピタル: 豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」, 2003, <http://www.npo-homepage.go.jp/data/report9.html>, 2007.9.30
- 13) 保健師によるソーシャルキャピタルの地区評価, 埴淵知哉, 日本公衆衛生雑誌, 55(10), 716-723
- 14) J. Coleman: Social Capital in the Creation of Human Capital. The American Journal of Sociology, 94, 95-120, 1988
- 15) F. Fukuyama 著, 鈴木主税訳: 大崩壊の時代、(上、下)、早川書房、2000
- 16) 藤澤由和 他: ソーシャル・キャピタルと健康の関連性に関する研究, 新潟医療福祉学会誌, 4(2), 82-89, 2005
- 17) Gerry Veenstra, Isaac Luginaah, Sarah Wakefield et al.: Who you know, where you live social capital, neighbourhood and health, Social Science & Medicine, 60(2005), 2799-2818
- 18) Caroline Mulvaney, Denise Kendrick, Depressive symptoms in mothers of pre-school children-effects of deprivation, social support, stress and neighbourhood social capital, Social Psychiatry Psychiatr Epidemiol, 40(2005), 202-

208.

- 19) Mark E.Feinberg, Sarah M.Chilenski, Mark T.Greenberg et al.: Community and team member factors that influence the operations phase of local prevention teams: The PROSPER Project, Society for Prevention Research, 8(2007), 214-226.
- 20) Elza Maria de Souza, Emily Grundy,: Inter generational interaction, social capital and health results from a randomised controlled trial in Brazil, Social Science & Medicine 65(2007) 1397-1409.
- 21) Mai Stafford, Mary Stafford, Mary De Silva, Stephan Stansfeld et al.: Neighbourhood social capital and common mental disorder, Health & Place, 14(2008), 394-405

The Applicability of Social Capital Concept in Community Health Nursing

Emiko Higo

Nagoya City University, School of Nursing

Abstract

The purpose of this study is to examine the effectiveness of social capital in public health nursing by assessing the association between social capital and health and clarifying the social capital index. A review of public health literature using PubMed and Igaku Chuo Zasshi was conducted and previous RCT studies were identified using the keywords: social capital and health. No studies were retrieved by Igaku Chuo Zasshi. In PubMed, 13 documents were retrieved and five studies which met the inclusion criteria were used for this study. Findings were (1) The social capital index used for RCT studies was based on social capital's basic elements, and the index measured social capital in terms of social cohesion. (2) Five studies measured components of the social capital as social cohesion, but there was no commonality in questionnaire items. (3) In these five RCT studies, strong associations between health and social capital in terms of social cohesion were not indicated, but there was one study which showed an association in an area where many poor people lived. (4) Regression analysis was used for data analysis in order to remove the influence of personal characteristics as confounding factors. In future, construction of a social capital index should be conducted after examining subordinate concepts of social capital in terms of social cohesion.

Key Words: Social capital, health, index, social cohesion